

基本設計について

1. 山里口御門の形態調査の予定と方法

1) 基本調査（6月～9月）：別紙中間報告

- ・松平文庫を中心とする古文書調査
城下絵図からみた櫓門・冠木門・塀の形態（階数・屋根や壁の仕様）
古文書からの資料（出入り口数他）
- ・修理工事報告書・復元整備報告書などによる類例調査（基本構法・内外観仕様）
- ・類例の現地調査（想定される復元櫓門に近いもの）
- ・3次元CGによる古写真に写る外形測定（高さ・軒出・仮平面位置）

2) 遺構調査（7月～9月）

- ・石垣痕跡と発掘調査による建物の柱梁位置・高さ等測定（別途業務の成果利用）

3) 復元設計（復元案）（8月～10月）

- ・上記の1) 2) の調査により得られた内容から櫓門・冠木門・塀の外観や構造を推定復元

4) 基本設計（実施復元案）（11月～3月）

- ・復元設計により承認された内容を、建築として現在の建築基準法や使用目的に応じたものとするため、平面計画・構造計画・防災計画・電気設備計画などを実施
- ・復元された案が可能か材料の入手調査などを実施（石類）

2. 石垣修復について

- ・建築確認申請を通すためには櫓門が接する石垣の安全性の確保が必要
- ・建物を建てた後では石垣の修復は困難

→上記等の理由から、建物に影響する範囲において積み直しを想定

古史料からみる山里口御門

1) 古写真 「本丸御廊下橋遠景」(『明治初年福井城郭写真』春嶽公記念文庫)(表1)

- ・冠木門 不明
- ・櫓門 石本瓦葺?、外壁漆喰?
- ・枅形塀 石本瓦葺、軒下漆喰塗り、腰壁石張り、
- ・石垣上塀 石本瓦葺、軒下漆喰塗り、腰壁石張り、狭間(丸型、縦型)

なお、石本瓦葺の屋根や石本瓦葺の塀の詳細は瓦門と異櫓の古写真が参考になる

2) 城下絵図(表2)

- ・本丸の櫓・櫓門の石本瓦葺と同じ屋根仕様の可能性が考えられる。

3) 本丸指図(表3)

・櫓門、冠木門のおおよその形状が判明。冠木門は主柱のみで扉幅は1.5間程度。石垣取合い付近や排水溝付近に脇柱の可能性。櫓門は1階に主柱2本、脇柱2本、控柱2本で、中央に入口を開く。なお、脇柱や控柱が石垣に添えられる添柱と兼用かは不明。2階は天守台側石垣から櫓門南石垣にいったいに建つ。本丸内側に入口用下屋が天守台石垣から南へ幅1間強~1.5間×半間で取り付く。下屋柱は独立柱の可能性あり。その南は空間となる。1階の主柱・脇柱・扉の位置は2階外壁線から内側に後退する。控柱の位置は外壁線と同じものから建物内側に入るものあり。天守台側の梁間方向の外壁は同石垣より外に飛び出す。石垣上の塀は石瓦と一部にある。

4) その他の文献

- ・現在のところ山里口御門に関する建築的な文献は見当たらない。なお、参考に桜御門普請に関する記録「桜御門御普請御作事方諸事留」(寛政3年~)松平文庫802が参考となる。
- ・冠木門、櫓門、塀は石瓦葺。石瓦を使用し、調達は町間歩。屋根瓦下土居葺。部材樹種は大梁に松を使用(但し9.5間末口3.5尺)。壁は小舞下地からで、中塗り、上塗りは白壁。(柱居より踏込石砂溜塀扣之類)、塀土塗り(表裏とも下塗り)、櫓門土下地塗り、大御門諸鉄具打、二階枅形の冠木際板ハメに取り外し(作事方にてはちり落し窓という 下窓口羽目ト口軍用也)、御門下蹴込石砂留石伏、
- ・また、塀については「真雪草子」『明治百年史叢書 松平春嶽全集(1)』原書房 昭和48年4月 p58
「福井城土手の白壁○城の堅固 福井城の土手の白壁の塀ハ、是迄尋常練塀と同様なりと、誰々も思ひしところ、(中略)表裏へ木舞にて塗り、壁三重位也。其間へ小砂利をつめてあり。」

表1 古写真等にみる山里口御門

資料名		明治初期古写真				明治初期古写真					城下絵図	福井城郭各御門其他見取絵
部位		山里口御門				瓦御門		多門櫓	石瓦塀	巽櫓	櫓門	主要櫓門
		冠木門	櫓門	枳形囲い塀	石垣上塀	高麗門	櫓門					
屋根	形状	切妻？(石垣痕跡)	切妻？(石垣痕跡)	石本瓦葺？	石本瓦葺	切妻	入母屋	入母屋	入母屋	入母屋	入母屋	入母屋
	仕上げ	？	？	石棟？	石棟	石棟・笠石	石棟・笠石	石棟・笠石	石棟・笠石	石棟・笠石	石瓦風(色から)	石瓦風(色から)
	棟			石棟？	石棟	石棟・笠石	石棟・笠石	石棟・笠石	石棟・笠石	石棟・笠石		
	鬼				隅石鬼板	石鬼板・鳥衾付	石鬼板・鳥衾付	石鬼？	隅石鬼板	隅石鬼板		
	その他					多少の棟反				千鳥破風・唐破風		
妻飾り	破風板					直線？	反り箕甲	？		反り箕甲		
	懸魚					かぶら懸魚鱗付	かぶら懸魚鱗付	？		かぶら懸魚鱗付		
	妻壁					壁	束・前包？と壁	？		壁		なし(一部束貫あり)
	仕上げ					漆喰塗籠	漆喰塗籠	？		漆喰塗籠		
	その他											
軒廻り	軒裏					漆喰塗籠	漆喰塗籠	漆喰塗籠		漆喰塗籠		
	軒出						大	小		大		
	茅負				漆喰塗籠	漆喰塗籠	漆喰塗籠	漆喰塗籠	漆喰塗籠	漆喰塗籠		
	垂木型				なし？	？	なし？	なし？	なし？	なし？		
	腕木・出桁				漆喰塗籠	あり？	？	漆喰塗籠(@一間？)	漆喰塗籠			
	軒反り					直線？	あり	あり	多少？	あり		
壁	柱型			なし	なし	—	あり(隅柱・中柱)	なし	なし	？		なし
	長押型			なし	なし	—	あり	なし	なし	あり	なしあり	なし(櫓と瓦門にあり)
	土台型			なし	なし	—		なし	なし	？		
	壁仕上げ		漆喰？	漆喰塗籠	漆喰塗籠	板壁	漆喰塗籠	漆喰塗籠	漆喰塗籠	漆喰塗籠		漆喰塗籠
	腰壁			石張り	石張り漆喰押さえ	—	—	—	石張り漆喰押さえ	—		—
	窓等			？	銃眼(丸型・縦型)		格子(菱)	格子(菱)	銃眼(丸型)	格子		格子
	その他						窓上下に框？	窓上下に框？				
その他	門上庇					木の柱・冠木	？			石瓦風(色から)	石瓦風(色から)	

？は判断がつかない

表2 城下絵図に見る山里口御門（絵図の信憑性）

番号	絵図名	年代	内容等	所蔵機関	所蔵機関の記号	旧記号	門名有無	屋根標記	御廊下橋	西三ノ丸櫓	備考
1	北之庄城郭圖（北庄家中図）	慶長18年頃	文政4年高畑氏所蔵写	松平文庫	1309	M73-1	無				
2	北之庄城郭図	慶長17,18年頃		松平文庫	1311	M73-3	無				
3	越前北ノ庄城ノ図	慶長17,18年頃	浅井権十郎蔵を明治20年鈴木準道写	松平文庫	1310	M73-2					
4	北庄家中図	慶長17,18年頃	嘉永6年山崎英繁写	福井市立郷土歴史博物館		写3					
5	北庄家中図	慶長17,18年頃	芦田伊人蔵写図を昭和29年谷口初意再写	福井市立郷土歴史博物館		写17					
6	北庄家中図	慶長17,18年頃	芦田伊人蔵写図を昭和29年谷口初意再写	福井市立郷土歴史博物館		写18					
7	御城下之図	貞享17年頃	貞享2年復原作成	松平文庫	1322	M73イ-3	無	薄黒褐色瓦線	薄黒褐色瓦線	薄黒褐色瓦線	全て同じ 櫓門の冠木門は赤がきつい 本丸内の石瓦塀は意識 大橋の石木区別は多少の色のみ
8	御城下之図	万治2年以前		松平文庫	1314	M73-4	無	薄黒褐色	薄黒褐色	薄黒褐色	天守・櫓・門の区別なし
9	御城下之図	万治2年以前	明治14年複製	松平文庫	1315	M73ハ-1	無	青緑本丸櫓門に同じ	茶	茶	小門はすべて茶 北東三ノ丸の焼け残りの表現ありか？焼失前としながら屋根に区別がある。
10	御城下絵図	寛文年間	寛文火災前	松平文庫	1319	M73ハ-2	無	薄茶黒	薄茶黒	薄茶黒	天守本丸に同じ 区別が感じられない
11	福居城下絵図	寛文年間	狛氏蔵図を大正年間影写	春嶽公文庫							
12	寛文九年福井城焼失之絵図	寛文9年		松平文庫	1316	M73イ-4	無	二階門焼失・冠木門焼失	廊下橋焼失	此櫓残	櫓門周囲石垣の損傷はない 北東三ノ丸の焼け残
13	御城下絵図	寛文10年	寛文火災後	松平文庫	1317	M73ハ-3	無		茶	薄緑に黒線	天守・櫓に同じ薄緑に黒線 天守あり？ 証文は茶、櫓門茶あり 小門はすべて茶 加賀口門緑
14	御城下之絵図	寛文年間	寛文初年から貞享2年まで使用	松平文庫	1318	M73-5	無	透明	茶	薄茶黒	天守あり 本丸櫓も茶のものあり、塗り忘れあり 区別なし
15	福居城下絵図	貞享元年頃？	井上翼章蔵図（？）を嘉永5年山崎英繁写	福井市立郷土歴史博物館		写5					
16	福居城下絵図	貞享元年頃？	芦田伊人蔵写図を昭和29年谷口初意再写	福井市立郷土歴史博物館		写20					
17	福居御城下絵図	貞享2年		松平文庫	1320	M73イ-5	無	二階櫓、漆喰？薄緑に黒線	薄茶柿風点線	薄緑に黒線	本丸に櫓同じ 冠木門は薄茶 小門の同じ 門の大小区別程度？
18	御城下之図	貞享2年	M73イ-5の下図？	松平文庫	1321	M73ロ-1	無	二階櫓、漆喰？青灰に黒線	薄茶柿風点線	青灰に黒線	本丸に櫓同じ 冠木門は薄茶瓦風線 小門の同じ 門の大小区別程度？小門にも瓦風線
19	御城下絵図別記	貞享2年		松平文庫	1323	M73-6					
20	越前国福井庄城絵図	元禄16年	城郭損所修補伺	松平文庫	1324	M74-1	無				櫓と門の区別のみ
21	福井城下絵図	正徳3年	作成原図	福井市立郷土歴史博物館		写4					
22	御城下之絵図	正徳4年		松平文庫	1325	M73ロ-2	無	二階櫓、薄緑灰に黒線	薄茶	薄緑灰に黒線	本丸に櫓同じ 冠木門は薄茶 小門の同じ 門の大小区別程度？ 櫓皮は薄黒
23	御城下絵図別記	正徳4年	諸屋敷・寺社	松平文庫	1326	M73-7					
24	御城下絵図別記	正徳4年	寺社	松平文庫	1327	M73-8					
25	福井城下ノ絵図	享保3~9		松平文庫	1332	M73-11	無	黒瓦線	薄茶	薄茶	本丸に櫓同じ 小門は薄茶 北東三ノ丸の焼け残りの表現？櫓門も薄茶あるいは重要度の差？照手加賀口は 黒瓦線 無松本口門のみ
26	福井城下絵図	享保10	松平千次郎領地越前国福井城下家中寺社并町絵図	松平文庫	1330	M73ロ-3	空白	空白	空白	空白	主要門のみ記入大馬出門、小馬出門、鉄門、漆門、下馬門
27	御城下之図	享保10	M73ロ-3の写	松平文庫	1331	M73-12					
28	福井城下之図	正徳元年以降		松平文庫	1333	M73イ-6	空白	空白	空白	空白	門の大小による区別 大灰瓦線 小茶
29	福井城下之絵図	享保年間		松平文庫	1334	M73ロ-4					
30	福井家中図	享保末年	文政2年天方友成写を大正年間影写	春嶽公文庫							
31	福井御城下絵図	享保17~18年		松平文庫	1335	M73-13	無				天守まであり 大小区別なし
32	御城下絵図	安永4年		松平文庫	1336	M73-14	天守台下門	薄緑に瓦線	桃	桃	本丸に櫓同じ 小門は桃 長屋門も桃 神社は多少赤桃？ 大橋も本丸に同じ 堂形は薄緑 石瓦塀は？
33	福井城下絵図	寛政年間	旧福井図書館時代の写図？	福井市立郷土歴史博物館		写21					
34	福井城下眺望図	寛政年間	寛政年中田辺利忠写を大正8年影写	春嶽公文庫							
35	福井分間之図	享和3年		松平文庫	1337	M73ロ-5	無	空白	灰に瓦線	灰に点線（柿風）	本丸に櫓同じ 門名あり 小門は薄赤に瓦線木部も同じ 北東三ノ丸の櫓門 柿葺風 長屋門も同じ
36	福井分間之図	享和3年	M73ロ-5の写	松平文庫	1338	M73ロ-6	無	空白	薄青に瓦線	薄茶に点線（柿風）	本丸に櫓同じ 北東三ノ丸の櫓門柿葺風一部なくなる 小門は大門に同じ 長屋門も同じ
37	福井城下之図	享和3年	享和3年福井分間之図の文化3年写	松平文庫	1339	M73-15	無	空白			大小門櫓区別なし（灰に瓦線）
38	福井分間之図	文化8年		松平文庫	1340	M73ロ-7	無	空白	灰に瓦線	薄茶に点線（柿風）	主要門名あり 本丸に櫓同じ 北東三ノ丸の櫓門柿葺風 小門と御座所門などでは薄赤に瓦線あり 赤瓦を意識か？
39	福井城図	文政2年	郭内詳細写	松平文庫	1341	M74-4	無	無	無	無	
40	福井分間之図	嘉永6年	中村氏蔵図を基に嘉永6年山崎英繁写	福井市立郷土歴史博物館		写6					
41	福井城下絵図	安政3年	鈴木拾五郎（準道）作成原図	鈴木家文書							
42	福井城下絵図	安政前後	芦田伊人蔵写図を昭和29年谷口初意再写	福井市立郷土歴史博物館		写19					
43	福井家中屋敷図	文政元年	文政元年山崎英之写、安政2年補筆あり	福井市立郷土歴史博物館		写7					
44	御城下之図（福井城下絵図）	慶応年間	明治14年復原	松平文庫	1342	M73-16	無	薄青に瓦線	薄茶	灰に瓦線	本丸に同じ 主要門名あり 大小門の区別大薄青に瓦線 小薄茶 長屋門薄茶
45	越前国福井城絵図	元禄頃？	郭内ノ略図 1324と関係？	松平文庫	1343	M74-2	無	二階櫓 瓦線庇線	白抜き	白抜き	本丸に同じ 大小の区別は瓦線のみ 大橋に瓦線
46	越前福井城之図	元禄頃？	郭内ノ略図 1324と関係？	松平文庫	1344	M74-3	無	紺に瓦線	茶	茶	本丸に同じ 大小の区別大紺に瓦線 小茶 北東三ノ丸の櫓門茶 大橋加賀口紺瓦線
47	越前福井城井城下之図古図		未完成図	松平文庫	1345	M73-18	無	外形	外形	外形	天守あり 下記止し

寛文9年の大火で焼失を免れた建物
西三ノ丸御座所櫓（花園櫓・武具土蔵・煙硝蔵）
漆門 頬当門（冠木門）

西三ノ丸御座所櫓
御鷹部屋口門・三ノ丸北門一部・三ノ丸間門

西三ノ丸御座所櫓（柿葺）

「国事双記」・「越藩史略」

「寛文九年福井城焼失之絵図（1316）」

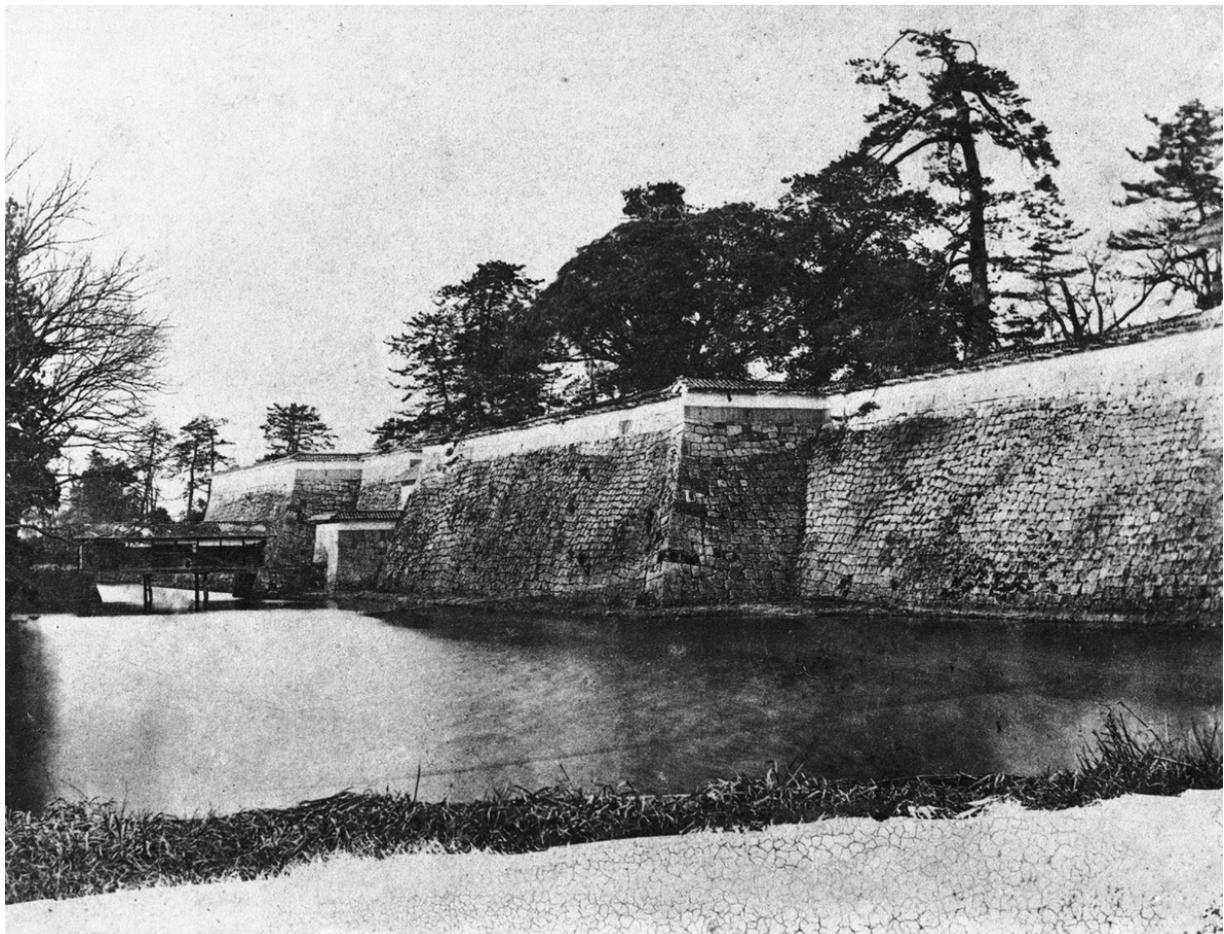
「真雪草子」松平春嶽全集

※ 上記の内容から西三ノ丸御座所櫓が板葺で書かれているものまた御廊下橋が板葺きで書かれているものは信頼性が高い

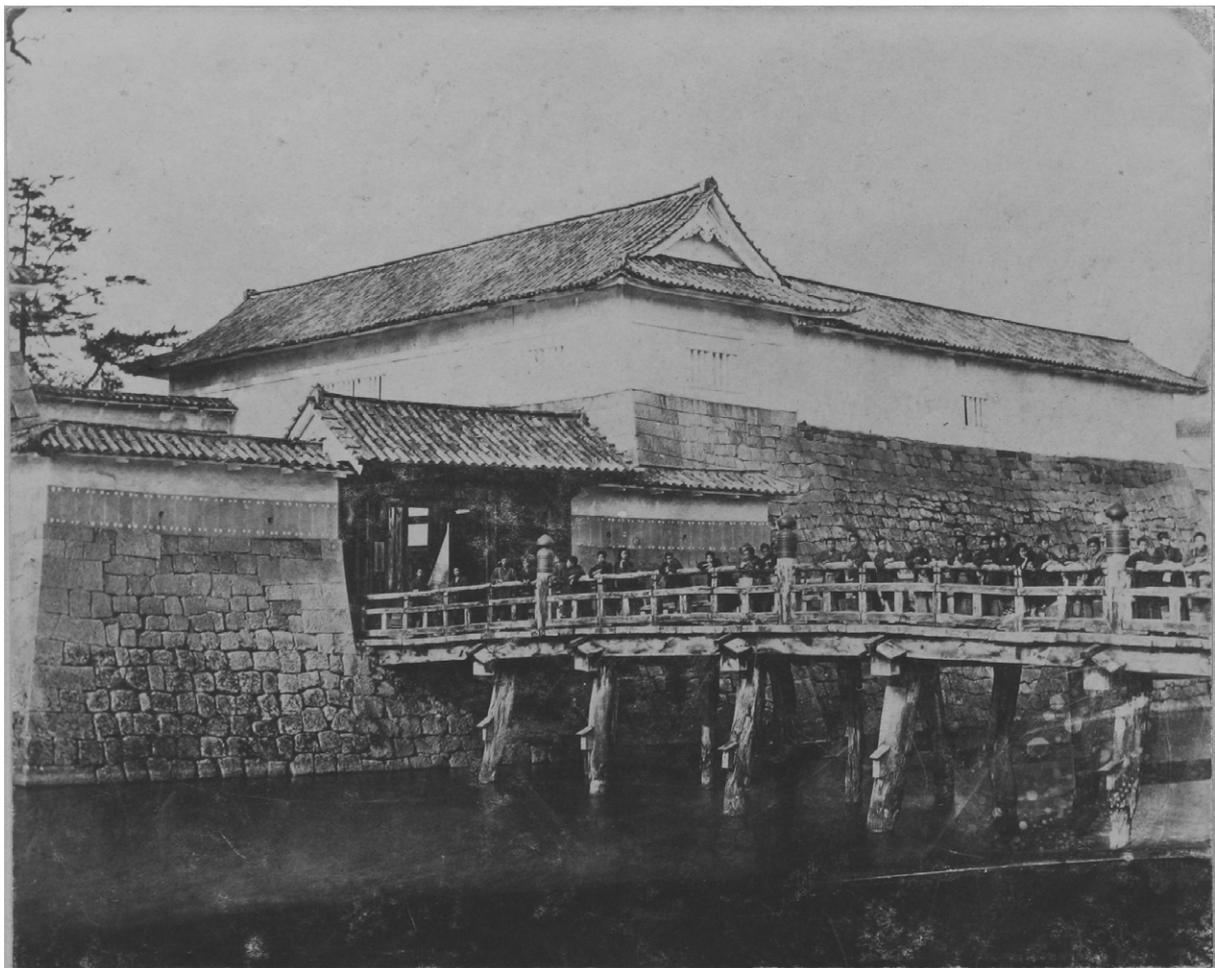
表3 本丸指図にみる山里口御門

松平文庫番号	詳細	1367	1374	1376	1369	1368	1373	1370	1362	1372	1364	1363	1371	1365
推定年代		寛文9年後?	寛文9年後?	寛文9年後?	寛文9年後?	寛文9年後?		文政6年以前	文政6年	文政13	天保元~2年	天保2~6年	天保6~11年	嘉永元年
備考		火災以前とある					掛紙を貼る			計画?				
部位														
冠木門	大きさ											1.5間弱		
	主柱	2				2		2		2	2	2	2	
	脇柱	2				2		1						
	扉						○	○	○		○	○		○
	脇壁						左右に壁?	壁						石垣横壁
	その他					排水路横の脇柱		石垣横の主柱	排水路横の扉	石垣横の主柱	扉と石垣の間空間	排水路横の扉	主柱が枅形壁による	排水路横の扉
櫓門	大きさ	石垣間2間半	石垣間約2.5間	石垣間約2.5間	石垣間約2間	石垣間約2間	石垣間約2間	石垣間2間(2間1尺)	石垣間約2間強	石垣間約3間	石垣間約2間	石垣間約2間	石垣間約2間	石垣間約2間
	主柱	2				2		2		2	2	2	2	2
	脇柱(添柱含)					2				2	2	2	2	2
	控柱					2				2	2	2	2	2
	控柱位置	2階外壁同位置?				2階外壁同位置				2階外壁同位置	2階外壁より内側	2階外壁より内側	2階外壁より内側	2階外壁より内側
	扉						○	○						
	脇壁						壁	壁						
	2階入口と下屋				なし	1ヶ所幅1間出半	幅1間強?	1.5間出半間程		幅1間強?		幅1間強?	幅1間強?	幅1間強?
その他	奥行2.5間? 雁木上空間	奥行2.5間?	2階幅5.5間奥行	2階奥行3間?	奥行2.5間強?	奥行2.5間?	2階奥行2.5間	奥行2.5間強?	奥行2.5間?	奥行2.5間強?	2階四隅柱	2階四隅柱.奥行2.5間?	奥行2.5間?	
塀					雁木上空間なし	雁木上下屋柱?	雁木上空間	雁木上空間	雁木上下屋柱?	雁木上空間	雁木上下屋柱?	雁木上下屋柱?	雁木上空間	
絵図の類似性	(暫定的分類)	A	A`	A`	B	C	D	D	E		E`	E	E`	E

絵図年代は寛文大火後は推定、文政13年以降は「福井城本丸指図の年代について 文政~嘉永期まで」による



古写真-1 御廊下橋写真（明治初期頃）（福井市立郷土歴史博物館蔵）



古写真-2 瓦御門写真（明治初期頃）（福井市立郷土歴史博物館蔵）



図-1 痕跡写真位置図と想定櫓門・冠木門・堀



写真-③ 冠木門西堀 (地上部石積改変)



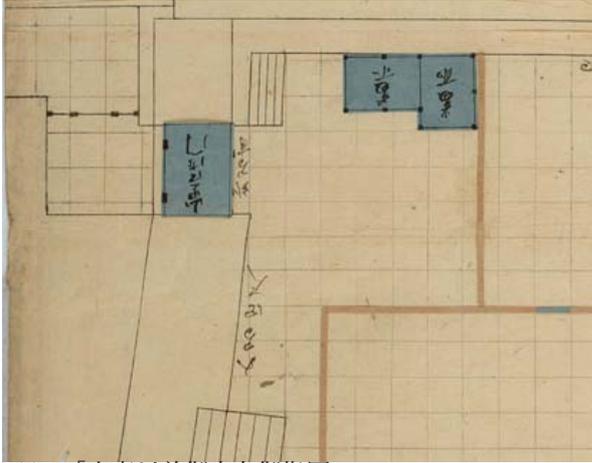
写真-④ 冠木門あるいは堀痕跡 (東櫓石垣)



写真-⑤ 冠木門西の堀痕跡 (南石垣)



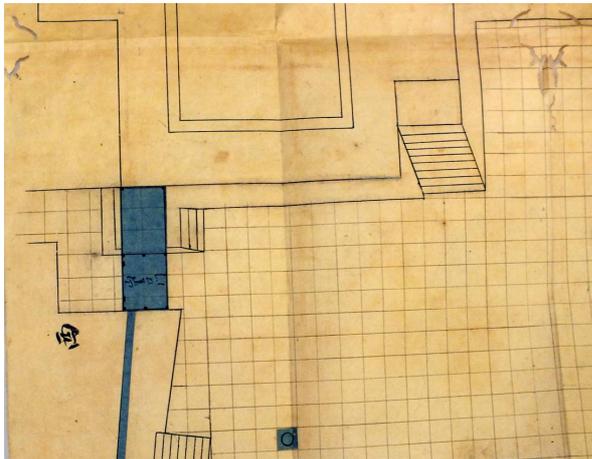
写真-⑥ 南石垣上の堀痕跡



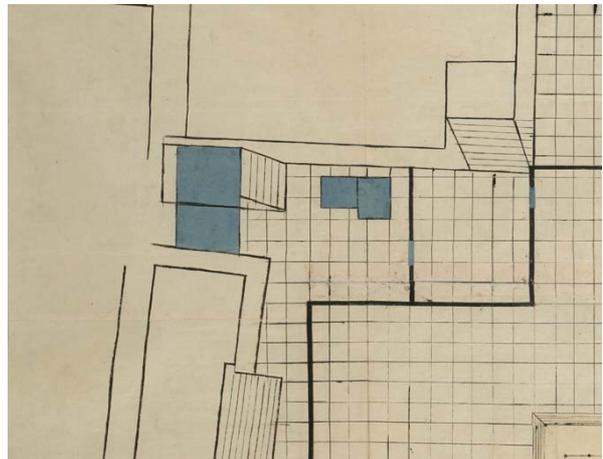
1367 「火事以前御本丸御指図」



1374 (本丸御建物図)



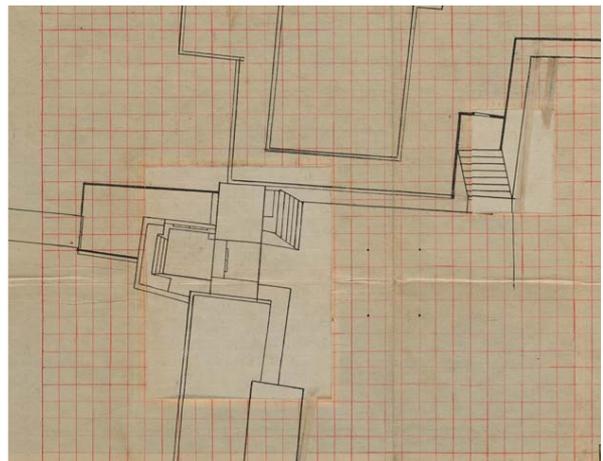
1376 (本丸御建物図)



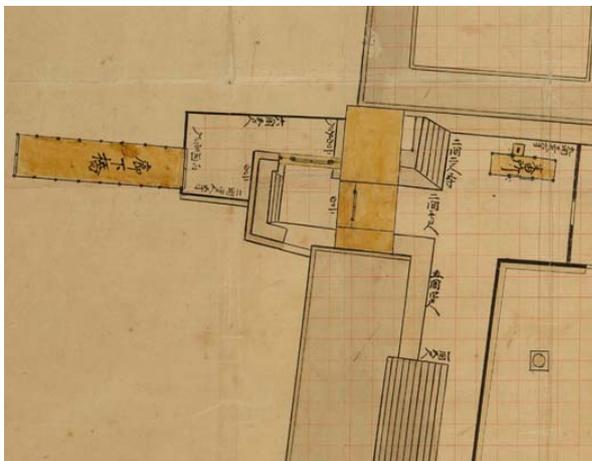
1369 「福井城本丸御建物図」



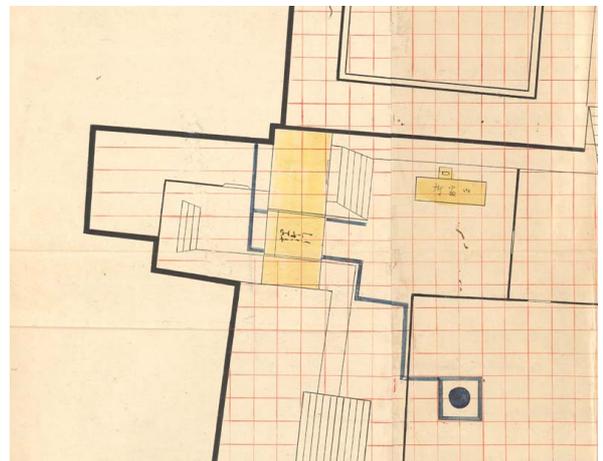
1368 「御本丸御差図」



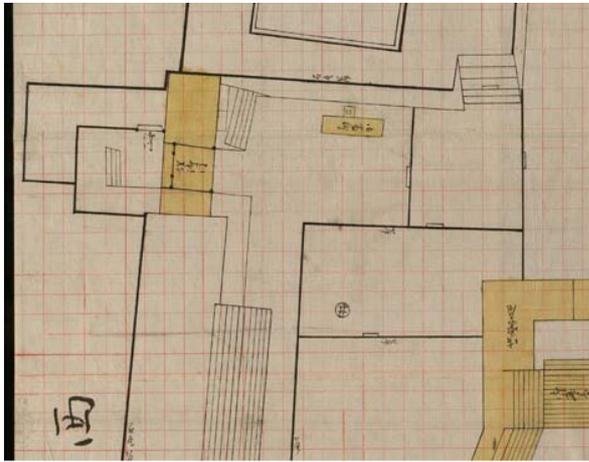
1373 (本丸御建物図)



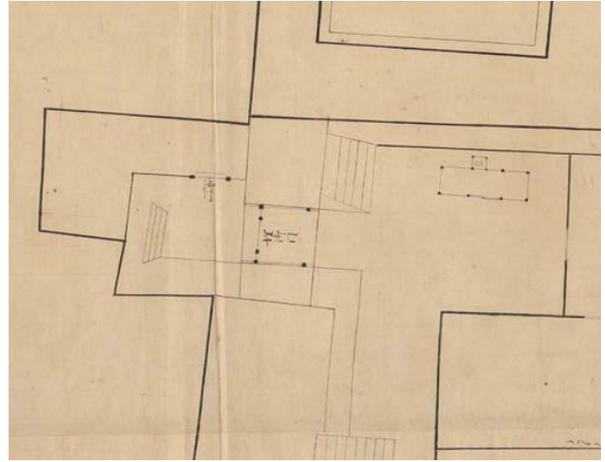
1370 「福井城本丸御建物図」文政六年以前



1362 「御本丸御絵図」文政六年



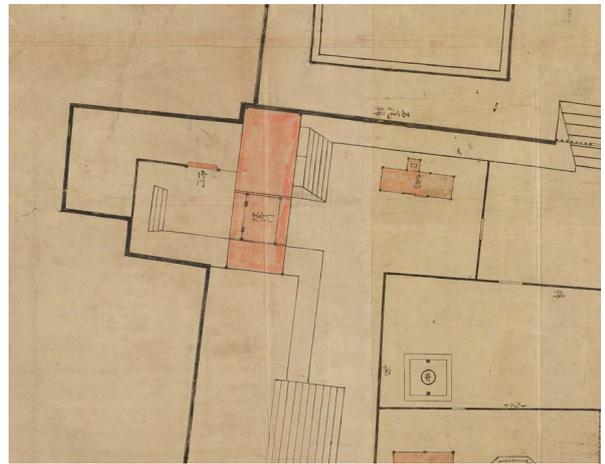
1372 「越前福井御本丸御建物図」文政十三※



1364 「天保二卯年出来御本丸御住居中之図」天保元~2※



1363 「御本丸指図」天保六年以前※



1371 「御本丸御殿ノ図」天保六~14年※



1365 「御本丸御絵図」(嘉永元年)

番号は松平文庫番号 なお、本丸指図等はすべて松平文庫 福井県立図書館保管による
※印は「福井城本丸指図の年代について 文政~嘉永期まで」若越郷土研究 55の2 H23.2による年代
_____は寛文大火後の可能性 (石垣は大火前?と大火後?)